

第3回 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成 28 年 6 月 27 日（月） 14 時～15 時 40 分
場 所	小牧市役所本庁舎 4 階 404 会議室
出 席 者	<p>【委員】（名簿順）</p> <p>柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授 佐藤 政明 小牧市下区長会会長 大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会篠岡地区会長 前田 光咲子 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会北里地区副会長 鈴木 道子 北里地域包括支援センター ゆうあい管理者 成瀬 善男 藤栄シニアクラブ代表 松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会代表 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク理事 松浦 早苗 保健連絡員代表 大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表 森 健一郎 小牧市社会福祉協議会 地域支え合い推進員 花村 琴美 公募市民 桑山 美知代 公募市民</p> <p>【欠席委員】</p> <p>長江 啓司 小牧市小中学校校長会 桃ヶ丘小学校校長 羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所ふれあい総合相談支援センター相談支援専門員 深堀 眞喜子 小牧ケアサービス まごころ会長</p> <p>【事務局】</p> <p>江口 幸全 健康福祉部 福祉総務課長 倉知 昌孝 健康福祉部 福祉総務課庶務係長 田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長</p>
傍 聴 者	0 名
配付資料	<p>資料 1 委員名簿・配席表</p> <p>資料 2 第 2 次計画の進捗管理シート</p> <p>資料 3 第 3 次計画の骨子案</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ（柴田会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、第 2 次地域福祉計画及び地域福祉活動計画の評価検証を行う。 3 次計画の内容を検討するにあたり、評価検証が必要になる重要なテーマである。 議事進行にご協力をお願いしたい。 <p>2. 議題</p> <p>(1) 第 2 次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より、第 2 次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の進捗状況について、資料 2 を用いて説明。 質疑、主な意見は以下の通り。
--

【シート①関連】

大杉委員)

- ・ 座談会に参加しているが、参加者が固定されていると感じている。それは、市や社協の進め方にも原因があると思う。
- ・ 今後の展望の中で、区を単位とした形にシフトしていくことは良いことだと感じる。その中で、区長や組長といった区の役員との連携なども含めて実践していく必要がある。
- ・ 組織化されると、新しいことを始める原動力になる。これは重要なテーマである。

鳥居委員)

- ・ 担い手の育成については、重要なテーマである。これまでの座談会など会合が夜間の開催が多かったが、高齢化等の進展により、それらの会に参加しにくいという声も聞いている。
- ・ 災害時の見守りなどについては、小学校区単位で実施すべきとの考えもあり、区単位と小学校区単位で実施するのはよいと思う。

森委員)

- ・ 座談会を開催しているが、参加メンバーにもよるが、意見の出方、課題を共有自体が元々されている地区、されていない地区などを、地域差が生じている。

大西委員)

- ・ 座談会では、意見を出される方とそうでない方がいる。
- ・ 例えば、事前にテーマを絞ってやることで意見は出やすいかと考える。

前田委員)

- ・ サロンなど事業を展開している。初めは関心が少なかったが、今では区全体でやろうという雰囲気になっている。
- ・ やってみたい、参加したいなどやり方を工夫したことにより、参加者も増え、つながりも持てた。
- ・ こうしたことも繰り返し、継続が必要かと思う。
- ・ 今は、区長などのリーダーが必要であり、そうした基盤が必要だと思う。
- ・ 市や社協の関与の仕方をもっと充実化してほしい。
- ・ なぜ、その活動が必要なのかなどの説明をしっかりとすべきである。

【シート②関連】

鳥居委員)

- ・ ボランティアに参加していない方への働きかけも必要だと思うが、なぜ、活動していないか。それは、要するにきっかけがないからである。
- ・ 何をすれば、参加者が増えてくるか、そうしたニーズ調査を行う必要がある。
- ・ 活動者と、団体をつなぐシステムが必要であり、その上、コーディネータが必要になってくる。
- ・ 老人クラブや子ども会などとの連携も必要だと思うが、維持を行うことも重要になってくる。

成瀬委員)

- ・ シニアクラブとしては、勉強会などは頻繁にやっている。区の回覧、掲示板でお知らせはするが、シニアクラブのメンバーが中心になってしまうのが現状である。
- ・ 新たな方など、より多くの方に参加してもらいたい。

大杉委員)

- ・ 過去、社協でボランティア団体の活動を見てもらうという取組みがあった。あれは非常に有効な活動であると思う。
- ・ 男性で何かをやりたいという方もいるが、最初の一步を踏み出すことに敷居の高さを感じたり、なかなか気軽には社協のボランティアセンターなどへいけないという声も聞いている。
- ・ 例えば、まつりの応援など、男性が活躍できる仕掛けづくりが必要になるか。

【シート③関連】

鳥居委員)

- ・ 母子家庭の学習支援については、子どもたちだけでは限界がある。
- ・ 例えば、先生のOBの方の関与など、バックアップ体制を整える必要がある。
- ・ 子どもの貧困問題は、大きな課題である。例えば、“こども食堂”などの開設を通じ、居場所づくりをするとともに、食べることを通じて、食べることの重要性を学ぶような活動をしている団体もいる。ココボラだけでなく、他の団体との連携を模索していく必要があるか。

【シート⑤関連】

佐藤委員)

- ・ 自分の地区では、ひとり暮らし高齢者は、民生委員が把握し、見守りをしてくださっている。

大杉委員)

- ・ ボランティア団体、一寸奉仕として活動しているが、私たちだけでは、全市をカバーできない。
- ・ 活動をする際は、なるべく目立つようにしている。それは、その地域で、活動者が出てくることを期待しているからである。
- ・ 活動の仕方、道具などについては、連携すればよいことであり、こうしたつながりの中で、活動が広がっていけばと思っている。

【シート⑥関連】

鳥居委員)

- ・ 避難所の確保と避難所での生活支援のあり方の検討とあるが、避難所となる施設の状況を確認することから始めてもらいたい。
- ・ 熊本地震では、高齢者は近所の行きやすい福祉の施設等に行き、福祉避難所が機能しなかったケースがあった。
- ・ 避難住民の移動の仕方、施設側の対応の仕方などを含めて検討が必要である。
- ・ 小学校区で避難所訓練をしているが、実際、要支援者が避難をすることも合わせて実践すべきである。

(2) 第3次計画の骨子案

- ・ 事務局より、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の骨子案について、資料3を用いて説明。

3. 閉会

- ・ 次回は平成28年9月下旬 開催予定。